

令和2年度

児童・生徒の学力向上を図るための調査

解説資料

令和2年9月

東京都教育委員会



# はじめに

東京都教育庁指導部長 増田 正弘

小学校においては今年度から、新学習指導要領が全面実施となりました。今回の改訂の基本的な考え方として、知識の理解の更なる質的向上や、確かな学力を育成するための取組の一層の推進が求められています。中学校における来年度からの全面実施も含め、各学校では、これまでの実践に加え、児童・生徒が身に付けるべき資質・能力を明確にし、児童・生徒一人一人の習得状況を評価・把握しながら指導の改善を行っていく必要があります。

東京都教育委員会は、国に先駆け、中学校では平成15年度から第2学年に在籍する全ての生徒、小学校では平成16年度から第5学年に在籍する全ての児童を対象として「児童・生徒の学力向上を図るための調査」を実施し、指導方法の改善に生かすための取組を継続しています。

その中で、今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、令和2年7月2日に予定されていた調査を中止とし、調査問題等を配布して御活用いただくという形に変更いたしました。

全国の学校が3月から一斉に休業になるという未曾有の事態が起きた中、学校教育に求められるのは、非常事態の中であっても、児童・生徒の学びを継続していくことです。特に、小・中学校においては、義務教育段階として、新学習指導要領の理念を踏まえながら、児童・生徒に知・徳・体をバランスよく育てていくことが求められます。

本調査は、児童・生徒一人一人の学習の達成状況や誤答の傾向等を把握し、個に応じた指導を行うなどして確かな学力を育む、という目的があります。そのため、本調査では児童・生徒に返却する「個人票」において、全ての問題の正答・誤答の状況が分かるようにし、一部の問題については、間違えたときに立ち戻るべき具体的な練習問題として、都教育委員会が作成した「東京ベーシック・ドリル」の項目名を記載しています。また、本資料には、間違えた問題を確実に復習できるよう、「復習のポイント」を掲載しています。これらの資料を活用しながら、本調査で明らかとなった「できなかったこと」、「分からなかったこと」について、児童・生徒が自らの学びに生かすとともに、「できる」、「分かる」まで徹底して繰り返し指導するなど、各学校の実態に応じた授業改善を進めていただきたいと思います。

各学校における指導方法の改善、個に応じた指導の充実の結果、児童・生徒に対する意識調査では、平成19年度からこの間、各教科の授業の内容が「分かる」と回答する児童・生徒の割合が上昇しています。一方で、思考力、判断力、表現力等の育成には課題があることも明らかになっています。

本資料では、「児童・生徒の学力向上を図るための調査」における各問題の解説、授業改善のポイントを掲載しています。各学校におきましては、各問題の解説、授業改善のポイントを参考にいただき、思考力、判断力、表現力等の育成を図る取組をより一層充実させていただきますよう、お願いいたします。

# 目 次

|                                     |    |
|-------------------------------------|----|
| ◇ はじめに                              |    |
| ◇ 目 次                               |    |
| ◇ 令和2年度 児童・生徒の学力向上を図るための調査 解説資料について | 4  |
| 1 本資料について                           |    |
| 2 調査問題の活用について                       |    |
| ◇ 調査問題の解説について                       | 5  |
| ◇ 「児童・生徒の学力向上を図るための調査」              |    |
| 小学校国語                               |    |
| 1 出題のねらい等                           | 8  |
| 2 間違えてしまったときの復習のポイント                | 9  |
| 3 調査問題・解答用紙・正答表                     | 10 |
| 4 調査問題の解説                           | 15 |
| 5 授業改善のポイント                         | 24 |
| 小学校社会                               |    |
| 1 出題のねらい等                           | 26 |
| 2 間違えてしまったときの復習のポイント                | 27 |
| 3 調査問題・解答用紙・正答表                     | 28 |
| 4 調査問題の解説                           | 35 |
| 5 授業改善のポイント                         | 44 |
| 小学校算数                               |    |
| 1 出題のねらい等                           | 46 |
| 2 間違えてしまったときの復習のポイント                | 47 |
| 3 調査問題・解答用紙・正答表                     | 48 |
| 4 調査問題の解説                           | 52 |
| 5 授業改善のポイント                         | 62 |
| 小学校理科                               |    |
| 1 出題のねらい等                           | 64 |
| 2 間違えてしまったときの復習のポイント                | 65 |
| 3 調査問題・解答用紙・正答表                     | 66 |
| 4 調査問題の解説                           | 72 |
| 5 授業改善のポイント                         | 83 |

## 中学校国語

|                      |     |
|----------------------|-----|
| 1 出題のねらい等            | 86  |
| 2 間違えてしまったときの復習のポイント | 87  |
| 3 調査問題・解答用紙・正答表      | 88  |
| 4 調査問題の解説            | 95  |
| 5 授業改善のポイント          | 105 |

## 中学校社会

|                      |     |
|----------------------|-----|
| 1 出題のねらい等            | 108 |
| 2 間違えてしまったときの復習のポイント | 109 |
| 3 調査問題・解答用紙・正答表      | 110 |
| 4 調査問題の解説            | 117 |
| 5 授業改善のポイント          | 126 |

## 中学校数学

|                      |     |
|----------------------|-----|
| 1 出題のねらい等            | 128 |
| 2 間違えてしまったときの復習のポイント | 129 |
| 3 調査問題・解答用紙・正答表      | 130 |
| 4 調査問題の解説            | 135 |
| 5 授業改善のポイント          | 146 |

## 中学校理科

|                      |     |
|----------------------|-----|
| 1 出題のねらい等            | 148 |
| 2 間違えてしまったときの復習のポイント | 149 |
| 3 調査問題・解答用紙・正答表      | 150 |
| 4 調査問題の解説            | 157 |
| 5 授業改善のポイント          | 171 |

## 中学校外国語〈英語〉

|                      |     |
|----------------------|-----|
| 1 出題のねらい等            | 174 |
| 2 間違えてしまったときの復習のポイント | 175 |
| 3 調査問題・解答用紙・正答表      | 176 |
| 4 調査問題の解説            | 181 |
| 5 授業改善のポイント          | 192 |

## ◇ 「児童・生徒質問紙調査」、「学校質問紙調査」

|            |     |
|------------|-----|
| ・ 児童質問紙調査票 | 194 |
| ・ 生徒質問紙調査票 | 195 |
| ・ 学校質問紙調査票 | 196 |

## 令和2年度 児童・生徒の学力向上を図るための調査 解説資料について

### 1 本資料について

令和2年度については、新型コロナウイルス感染症に係る臨時休業等の影響を考慮し、児童・生徒の学力向上を図るための調査は実施しないこととした。本調査の目的及び内容は次のとおりである。

#### ○ 調査の目的

- (1) 都教育委員会は、学習指導要領に示されている教科の目標や内容の実現状況を把握し、全都における教育行政施策に生かす。
- (2) 区市町村教育委員会は、教育課程や指導方法等に関わる自地区の課題を明確にし、その充実・改善を図るとともに、自地区の教育行政施策に生かす。
- (3) 各学校は、教育課程や指導方法等に関わる自校の課題・解決策を明確にし、児童・生徒一人一人の学力の向上を図る。
- (4) 都教育委員会は、都民に対し、東京都の公立小・中学校等における児童・生徒の学力の状況について、広く理解を求める。

#### ○ 調査の内容

- (1) 児童・生徒の学力向上を図るための調査
  - ・ 小学校第5学年…国語、社会、算数、理科
  - ・ 中学校第2学年…国語、社会、数学、理科、外国語〈英語〉
- (2) 児童・生徒質問紙調査
- (3) 学校質問紙調査

本資料は、「令和2年度 児童・生徒の学力向上を図るための調査」の調査問題等を活用し、各教育委員会や各学校が児童・生徒の学力や学習の状況、課題等を把握するとともに、学習指導の改善に取り組むことができるよう作成したものである。

### 2 調査問題の活用について

児童・生徒に調査問題に取り組みさせた後、本資料を活用し、解答を採点して誤答を分析するなどし、課題等を把握した上で、それらを踏まえて学習指導の改善・充実を図ることが可能である。

また、各学校における調査問題等の活用については、以下のような例が考えられる。なお、これらは活用の例の一部を示したものであり、各学校の状況や児童・生徒の実態に応じて、工夫して活用することが大切である。

#### (1) 児童・生徒の学力向上を図るための調査

- ・ 対象学年の児童・生徒に対して校内で一斉に実施し、その結果を昨年度の結果と比較・分析し、授業改善に関する校内研修会やOJTの資料、年度末の学校評価の資料として活用する。
- ・ 各教科の調査問題と関連する内容を指導した単元等の学習の終了時に、短時間で当該問題のみに取り組みさせ、単元の学習の定着状況を確認する資料として活用する。この場合、調査対象学年以外での活用も考えられる。必要に応じて、問題を複写して使用することも可能である。
- ・ これまでの本調査の結果から課題がみられた内容に関連する問題のみを複写して使用し、当該問題の内容を既に学習している複数の学年において短時間で取り組みさせ、同一の問題に対する各学年の学力の定着状況を比較・分析し、授業改善に関する校内研修会やOJTの資料として活用する。
- ・ 小学校第6学年の児童・中学校第3学年の生徒に対して、昨年度の本調査で課題がみられた学習内容と関連する本年度の調査問題のみを、関連する各教科の学習の終了時に短時間で取り組みさせ、昨年度課題がみられた学習内容に関する経年の変化を把握するために活用する。一人一人の学習の伸びやつまづきを把握することで、個別の学習指導等に活用する。

#### (2) 児童・生徒質問紙調査

- ・ 対象学年の児童・生徒に対して校内で一斉に実施し、その結果を昨年度の結果や学校質問紙調査の結果と比較・分析し、授業改善に関する校内研修会やOJTの資料、学校評価の資料として活用する。

#### (3) 学校質問紙調査

- ・ 例年どおり、管理職等が回答し、その結果を昨年度の結果や児童・生徒質問紙調査の結果と比較・分析し、授業改善に関する校内研修会やOJTの資料、学校評価の資料として活用する。

## 調査問題の解説について

調査問題について、出題のねらい、解説（学習指導要領における領域・内容、解答類型）等を記述している。

各教科の解説のページの前に、「出題のねらい等」と「間違えてしまったときの復習のポイント」、「調査問題・解答用紙・正答表」を掲載しています。

出題のねらいを掲載しています。

### 調査問題の解説

1] (1) 正負の数の加減ができる。

【数学的な技能】

学習指導要領における領域・内容を示しています。なお、大問を通して同じ領域・内容の場合は、各大問の最初にまとめて示しています。

【学習指導要領における領域・内容】  
〔第1学年〕A 数と式

- (1) 具体的な場面を通して正の数と負の数について理解し、その四則計算ができるようにするとともに、正の数と負の数を用いて表現し考察することができるようにする。  
ウ 正の数と負の数の四則計算をすること。

【解答類型】

| 問題番号   | 解答類型  | 正答        |   |
|--------|-------|-----------|---|
| 1] (1) | 1 - 2 | と解答しているもの | ◎ |
|        | 2 2   | と解答しているもの |   |
|        | 3 4   | と解答しているもの |   |
|        | 4 - 4 | と解答しているもの |   |

【解答類型について】

- 【解答類型1】は、正負の数の加減ができています。
- 【解答類型2】は、絶対値の大きいほうから小さいほうを引くことはできているが、符号について正しく求めることができていないものと考えられる。
- 【解答類型3】は、正負の数の加減において、絶対値の扱いについても、符号についても正しく処理することができていないものと考えられる。
- 【解答類型4】は、正負の数の加減において、絶対値の扱いについて正しく処理することができていないものと考えられる。

1] (2) 正負の数の乗除ができる。

【数学的な技能】

解答類型を示しています。

予想される解答から、身に付いている力や考えられるつまずき等を記述しています。参考として、都や国の調査の過去の関連する問題、報告書等を記載しています。

【学習指導要領における領域・内容】  
〔第1学年〕A 数と式

- (1) 具体的な場面を通して正の数と負の数について理解し、その四則計算ができるようにするとともに、正の数と負の数を用いて表現し考察することができるようにする。  
ウ 正の数と負の数の四則計算をすること。

【解答類型】

| 問題番号   | 解答類型   | 正答        |   |
|--------|--------|-----------|---|
| 1] (2) | 1 - 18 | と解答しているもの | ◎ |
|        | 2 - 2  | と解答しているもの |   |
|        | 3 18   | と解答しているもの |   |
|        | 4 2    | と解答しているもの |   |

【解答類型について】

- 【解答類型1】は、正負の数の乗除ができています。
- 【解答類型2】は、 $(-4) \times 3$ を先に計算したものと考えられる。
- 【解答類型3】は、正しい計算の順序で計算することはできているが、符号について正しく求めることができていないものと考えられる。
- 【解答類型4】は、計算の順序についても、符号についても正しく処理することができていないものと考えられる。

## 解答類型について

### ・解答類型について

解答類型は、児童・生徒一人一人の具体的な解答状況を把握することができるように、設定する条件等に即して解答を分類、整理したものです。【解答類型について】で、つまずきの分析ができるように解答類型の説明をしています。正誤だけではなく、一人一人の解答の状況等に着目して、学習指導の改善・充実を図ることができます。

### ・類型番号について

類型番号は、「1」～「8」（最大）を「正答や予想される解答」としています。これに加え、解答類型には類型番号「9」の「上記以外の解答」（類型「1」～「8」までに含まれない解答）、類型番号「0」の「無解答」（解答の記入のないもの）がありますが、本解説資料の解答類型では、説明で必要なものを除き、省略しています。

